

〔日本の自然と動物〕

この映画は四季にわたって全国各地の野生の鳥や獣を紹介し、また祭りや絵馬、民話などにみられる古来からの日本人と動物のかかわりあいと現代の動物愛護、自然保護に対する努力を紹介する。



はじめに日本人と野生動物のかかわりあいを描いている。狩猟時代のあと、稲作が全国にひろがり、やがて仏教が伝来し社会の底辺にまで広まって、殺生（せっしょう）を禁じると、日本人の野生動物との親しいかかわりあいはいは古い民話の中だけになってしまう。

仏教が殺生禁止の中に野鳥と魚を加えなかったのは、それらが豊富すぎたからかもしれない。国土の狭い島国で、野生の獣が少ないのに比べて、野鳥は実に多い。地理的な位置から、春は南方から、冬は北方からの渡り鳥が多く、日本の野鳥の7割は渡り鳥だといわれている。

次に現代に舞台を移して、春・夏・秋・冬の季節を追って、様々な野生鳥獣の生態を描いていく。ツルやハクチョウ、サルやカモシカなど。中でも印象に残るのは、地球上最北限のサルといわれるニホンザルの生態だろう。また、優美な丹頂ヅルをふくめて、冬の渡り鳥の壮大な姿は圧巻である。さらに、工業化で干潟を奪われていく渡り鳥の姿から、日本の自然保護、野生鳥獣の保護のあり方にもふれる。

記録

16ミリ

カラー／27分

英・仏・独・伊・西・
葡・露・韓・アラビ
ア・ヒンディ・ペル
シャ・インドネシア・
タイ語版

■企画
外務省

スタッフ

■製作・演出・撮影

村山和雄

■脚本

村山英治

■音楽

玉木宏樹

■解説

グレアム・ウェブス
ター（英語版）